

新社長就任会見 ご挨拶（要旨）

トヨタ自動車東日本株式会社（本社:宮城県黒川郡大衡村中央平1番地 取締役社長:白根 武史）は、9月13日（金）午後13時30分から同社 講堂において新社長就任会見を行いました。つきましては、新会長および新社長のご挨拶の要旨をご案内申し上げます。

記

<白根新会長 ご挨拶>

トヨタ自動車東日本は、2012年7月に3社が統合しスタート。会社設立の理念は、「東北を基盤に、世界一の魅力あるコンパクト車をつくる」ということでやってきた。東北各県の自治体、東北経済産業局並びに国土交通省の東北地方整備局始め各行政の皆様の後押しを頂き、販売店、仕入先と一体となって東北にクルマづくりの輪を広げてきた。お礼申し上げたい。

トヨタ自動車東日本が強みとしていく2本柱

- 現場発信のクルマづくりで、現場の第一線の一人ひとりが自分の使う道具立ては自分の知恵と工夫でつくり込む。今やそれがシンプルでスリム、コンパクトな設備、工程にまで発展。
- 開発～生産準備～生産に至るまで、あたかも一人の人間が進めるかの如く一気通貫によって「やり直し」や「手戻り」をなくし、全ての仕事のプロセスを通しての完成度向上、リードタイム短縮へとつなげる。

2016年にトヨタ自動車カンパニー制を導入以降、TCカンパニーと当社は一体になって進めてきた。いよいよそれぞれのトップを一人が担い、更にもっといいコンパクト車づくりにドライブをかけるタイミングとなった。10月1日より当社の社長を宮内さんにバトンタッチする。

<宮内新社長 ご挨拶>

トヨタ自動車は2016年に、製品軸で社内カンパニー制を導入しトヨタ・コンパクトカー・カンパニー（TCカンパニー）のプレジデントとして、これまでトヨタのコンパクト車の企画から開発・生産までの全体の責任者として役割を担ってきた。

TCカンパニーが出来て3年余り、主に企画から開発を担っているトヨタと生産を中心にした当社の「魅力あるコンパクト車づくり」に向けた融合は、人の交流を含めて相当進んできた。そうした中、経営トップをワントップにするのは、当社が東北で培ってきた強みをトヨタのグローバルにも繋げていきトヨタグループ全体の力に変えていきたいという新たな挑戦、想いからである。

今、当社が主戦場としている国内のコンパクト車市場は、若者のエントリーカーとしてのニーズ、高齢者にとって取り回しがしやすいダウンサイザーとしてのニーズ、シェアリングに代表される利活用としてのニーズなど様々なニーズがありそれは言い換えると、コンパクト車市場のポテンシャルは非常に高いということである。

自動車業界は100年に1度という、いわゆるCASEと呼ばれる大きな変革の波が押し寄せてきているが新たな技術がいかに進歩、普及しようとも「ものづくり」というクルマをつくるリアルな世界は決して無くならない。新しい技術と共に、私どもはこの東北で「ものづくりの力」を更に磨き東北からグローバルに発信できる力を備えていかなければならない。

「東北を基盤に世界一の魅力あるコンパクト車をつくり、お客様にもっとお届けしていきたい。クルマの生産を通じて東北にもものづくりの輪を広げ、仕入先や販売店とともにオールトヨタで東北の復興、地域の活性化に貢献していきたい」というのは変わる事のない私どもトヨタ自動車東日本 設立の精神である。

東北にもものづくりの輪が少しずつ広がってきていることは、共に競争力向上に取り組んでいる仕入先の皆さんや、地元自治体、東北経済産業局、東北地方整備局などの強い後押しがあってのものであり本当に感謝を申し上げたい。そして、白根社長がこれまで築き上げてきた東北でのものづくりの基盤やネットワークを更に一つひとつ丁寧に積み上げ、より強い絆でその輪を広げていくことそして、東北の「ものづくりの力」をグローバルに発信していくことこそがこれから私が果たすべき重要な役割だと認識している。

これからも東北の地域の皆様をはじめ全てのステークホルダーの皆様に変わらぬご支援をお願いすると共に微力ながら、皆様と一緒に東北復興の一翼を担って参りたい。

以上